

英文による初めての日本のワイン解説書

2017年12月 高橋 梯二 トールーズ大学法学博士

表題 Wines of Japan—日本のワイン
言語 和英対訳 約460ページ
著者 高橋梯二、原田喜美枝、小林和彦、齋藤浩
出版社 イカロス出版株式会社
価格 2,484円

日本ワインは、近年品質が急速に改善され、現在、世界で注目されつつありますが、今まで、海外に対しては断片的な情報しか伝えられていませんでした。本書は、日本のワインの生産の現在の真の姿を総合的にとらえて海外に発信することを目的としています。また、海外に発信される情報は日本人にとっても興味あることと思われ、英和対訳となっています。日本語を除いた英語のみの本は電子書籍としても発売される予定です。

日本ワイン（日本のブドウ100%でできるワイン）の生産量の85%以上を占める「山梨」、「長野桔梗ガ原」、「長野千曲川バレー」、「山形最上川」、「新潟」及び「北海道」の東日本の主な産地を取り上げ、多湿というブドウにとっては不利な条件と闘いながらどのようにワイン生産を發展させ、今や世界に通用するワインができるようになったのかを説明しています。

また、これらの産地における約45のワイナリーを訪問し、ワインづくりの考え方、決して有利とはいえない自然・経済環境下での栽培や醸造における現実の取り組み、将来の方向などを記述しているほか、各ワイナリーの主なワインの風味と特色についても若干の解説をしています。

各産地での取材で感じたのはそれぞれのワイナリーがそれぞれの思いでワイン生産を行っていますが、その中に、各産地に共通するワインづくりの思想あるいは哲学が日本では今や形成されつつあるように感じました。本書においてこのことを感じ取っていただければ幸いです。したがって、ルイ・パストゥールの次のワインに関する象徴的言葉を本書の冒頭に掲げています。

「一瓶のワインの中には、すべての書物よりも多くの哲学が詰まっている」

